

News Release

2020年12月24日
NITE (ナ イ ト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構



テレワークで大混雑 ～足下のごちゃごちゃ配線に注意～

1. 事故の発生状況

2015年度から2019年度までの5年間にNITEに通知された製品事故情報^{※1}のうち、北陸3県（富山県、石川県及び福井県）で配線器具の事故が18件^{※2}、プラグ・コードの事故は6件^{※2}ありました。

1-1 配線器具の製品事故

(1) 県別の年度別事故発生件数（表1）

表1 配線器具の製品事故の県別年度別事故発生件数（2015～2019年度）

発生年度		富山県	石川県	福井県	合計
2015年度		2	2	2	6
2016年度		1	3	0	4
2017年度		1	0	1	2
2018年度		2	2	1	5
2019年度		1	0	0	1
合計	事故件数	7	7	4	18
	火災件数	[7]	[7]	[4]	[18]

※1:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2:重複、対象外情報を除いた事故発生件数

(2) 県別の被害状況別事故発生件数（表2）

表2 配線器具の製品事故の県別被害状況別事故発生件数（2015～2019年度）

被害状況		富山県	石川県	福井県	合計
人的被害	死亡	0	0	0	0
	重傷	0	0	0	0
	軽傷	0	0	0	0
物的被害	拡大被害	6	4	3	13
	製品破損	1	3	1	5
被害なし		0	0	0	0
合計		7	7	4	18

1-2 プラグ・コードの製品事故

(1) 県別の年度別事故発生件数 (表 3)

表 3 プラグ・コードの製品事故の県別年度別事故発生件数 (2015~2019 年度)

発生年度		富山県	石川県	福井県	合計
2015 年度		1	2	0	3
2016 年度		0	0	1	1
2017 年度		0	0	1	1
2018 年度		1	0	0	1
2019 年度		0	0	0	0
合 計	事故件数	2	2	2	6
	火災件数	[2]	[2]	[2]	[6]

(2) 県別の被害状況別事故発生件数 (表 4)

表 4 プラグ・コードの製品事故の県別被害状況別事故発生件数 (2015~2019 年度) ※3

被害状況		富山県	石川県	福井県	合計
人的被害	死亡	0	0	0	0
	重傷	0	0	0	0
	軽傷	0	0	1	1
物的被害	拡大被害	2	1	0	3
	製品破損	0	1	1	2
被害なし		0	0	0	0
合 計		2	2	2	6

※3: 表 4 において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害 (製品破損) に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な製品事故事例

2-1 配線器具の製品事故事例

(1) 最大電力を超えて複数の電気製品を接続したことにより火災が発生した事故

・ 2019 年 4 月 (富山県、男性、70 歳代、拡大被害)

【事故の内容】

コンセント及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

コンセントに接続可能な最大電力 (1500W) を超えて複数の電気製品を接続し使用していたため、配線と刃受金具の接触部で異常発熱し、周囲の樹脂が焼損したものと考えられる。

(2) 延長コードが過度な屈曲状態で使用されていたことにより火災が発生した事故

・2018年11月（福井県、女性、30歳代、拡大被害）

【事故の内容】

延長コードに複数の電気製品を接続して使用していたところ延長コード及び周辺が焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

延長コードが過度な屈曲状態で使用されていたため、芯線が断線、スパークし、出火したものと考えられる。なお、パッケージの台紙には火災のおそれがあるため、「コードがねじれたり、引っ張られた状態で使用しない。」「コードを固定したり、挟んだり、折り曲げたり、重いものをのせたりしない。」旨、記載されていた。

(3) 延長コードのコードコネクタに水がかかってトラッキング現象が起こり、火災が発生した事故

・2017年10月（富山県、性別年齢不明、製品破損）

【事故の内容】

延長コードのコードコネクタボディ付近から発煙し、接続していた延長コードのプラグが焦げた。

【事故の原因】

延長コードを水槽の近くで使用したため、水槽の水が掛かってコードコネクタボディ内部でトラッキング現象が生じ、発煙・焼損したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「水の掛かる所では使用しない。感電、火災の原因となる。」旨、記載されていた。

2-2 プラグ・コードの製品事故事例

(1) ヘアアイロンのコードプロテクターの耐屈曲性が不足していたため短絡、スパークが発生した事故

・2016年5月（福井県、性別年齢不明、製品破損）

【事故の内容】

ヘアアイロンを美容室で使用中に電源コードから火花が発生し、本体側の電源コードが断線した。

【事故の原因】

ヘアアイロンの電源コードの設計変更をした際に、コードプロテクターの耐屈曲性が不足していたため、通常使用時の屈曲により半断線状態となり、短絡・スパークしたものと考えられる。

(2) 電気ファンヒーターの電源線を手より接続していたため異常発熱し火災に至った事故

・2016年2月（富山県、男性、50歳代、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、電気ファンヒーター及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電気ファンヒーターを改造し、電源線を手より接続していたため、手より接続部で接触不良による異常発熱が発生し、出火に至ったものと考えられる。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」+「NITEのロゴ」として
ください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒920-0024 石川県金沢市西念 3-4-1

独立行政法人製品評価技術基盤機構

北陸支所 担当者 樋口、塚谷

電話 : 076-231-0435

以上